さいたま市立病院だより
えがお
Vol.49

皮膚科の紹介

当院は1953年50床の浦和市立伝染病院として設立されました。徐々に増築・拡大を続け、本格的な総合病院として運用を開始したのは1989年370床の規模で標榜科14科に増えた時と言え、その際皮膚科も生まれました。初代皮膚科部長は現埼玉皮膚科医会会長の仲弥先生、その後1991年杉俊之先生にバトンタッチ、私は三代目として2005年から赴任し18年目に突入します。私はそれまでいろいろな風土の関東内の病院を転々としながら複数の上司につき、一通りの経験を積んで当院に落ち着いた勤務医です。よって、特別な特徴はありません。

さいたま市の医療は街が大規模故に複雑だと捉えています。旧浦和市に大学病院がなく、通常なら大学病院が扱うレベルの難しい症例（疾患もそうですが、社会背景や緊急性などいろいろな面で）に出会います。小さな科ですのでそれらすべてを扱えるわけではありませんが、皮膚科は皮膚の何でも屋であると心得て、できる範囲は頑張ってこの地域の医療ニーズに応えようとしています。

どこまでできるかを具体的に申しますと、複雑な化学療法や手術を要する悪性腫瘍、診断がつかない稀な皮膚症状は大学病院やがんセンターに相談することもあります。美容への対応、アレルギーの複雑な検査なども用意できません。光線療法などの機器の揃えも最低限、保険外の治療は爪診療くらいですし、新薬の導入は比較的遅めです。とにかく一般診療をこなすことが重要と考えています。

皮膚科部長
齋藤　京

それでも2021年に念願の常勤医2名から3名への増員が実現しました。増員に合わせたかのようにコロナ禍や三次救急病院になった関連の業務も増えているため余裕のない中ではありますが、昨今の高齢化や基礎疾患の増加に伴う重度感染症や悪性腫瘍の増加傾向に対応しています。そこは2022年8月現在勤務の倉地祐之眞・山田いづみ両医師の若い力に感謝です。重視している院内他科からの皮膚トラブルに関する依頼への対応もより充実しており、当院での診療を少なからず下支えしていると自負しています。近隣の開業医さんとの交流も積み重なり、連携も円滑になりました。当科は、院外には「受診して納得・安心のお医者さん」、院内では「頼りになる皮膚のアドバイザー」を目指して日々奮闘しています。

手術前には、中止する必要があるお薬や栄養補助食品（サプリメント）があります！

お薬には、手術中・手術後に影響を与えるものがあります。その代表として、抗血小板薬・抗凝固薬があります。このお薬は、血液をさらさらにしますが、手術時に血が止まりにくくなることがあります。また、高血圧薬は、手術中の血圧に影響します。糖尿病薬は、手術後の傷の治癒に影響するものがあります。一部のホルモン剤は、術後の長期安静で血栓が形成されやすくなります。栄養補助食品は、健康維持に使用されていますが、一部の栄養補助食品で手術前に服用していますと血が止まりにくくなるなどの影響が出るものがあります。これらのお薬や栄養補助食品の影響を避けるために、手術前に服用を中止していただく場合がありますが、手術内容や手術の方法によって、お薬の中止の有無や期間が異なりますので医療スタッフの判断にお任せ下さい。

前述したお薬や栄養補助食品だけではなく、貼り薬や塗り薬等も含めて使用している全ての薬を、患者さんを担当している医師、看護師、薬剤師のいずれかにお知らせ下さい。なお、お薬手帳をお持ちの方は、外来受診時にご提示のご協力をお願いします。

当院での取り組み ～安心して手術を受けられるように～

さいたま市立病院では、周術期※医療の向上を目的として、周術期を専門とする薬剤師を手術室に配置しています。手術室で使用するお薬は、麻薬・毒薬も多いため、薬剤師がこれらのお薬を適正に管理しています。

また、薬剤師は手術を受けられる患者様がどのようなお薬を使用しているかを把握し、手術前のお薬の中止・手術後の再開を確認しています。そして、麻酔科医師、手術室看護師と協働して患者さんが安心して手術を受けられるように努めています。

※周術期・・・術前（手術が決定してから入院、手術前まで）、術中（麻酔・手術）、術後（術後の痛みから退院）までの、手術前後の一連の期間

さいたま市立病院の各診療科の力を入れている診療内容（疾患・処置等）について、えがお内にて３回に分けてご紹介します（次回は１月発行予定です）。

※当院は地域医療支援病院の承認を受けているため、予定受診をお考えの皆様には、かかりつけ医からの紹介状を持参し、受診していただくようお願いいたします。

消化器内科	疾患	消化器疾患全般の診療を行いますが、消化器癌全般、ウイルス性肝炎、肝硬変、急性肝不全、総胆管結石、閉塞性黄疸、急性膵炎などに積極的に対応します。
	処置	内視鏡的止血術、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、小腸鏡、カプセル内視鏡、肝腫瘍に対するマイクロ波焼灼術、TIPS、BRTO、デンバーシャント、定位放射線治療、ERCP、胆管ステント留置、超音波内視鏡（生検）などいろいろな手技を用いて低侵襲での治療を行っています。
循環器内科	主な症状など	胸痛、息切れ、動悸、むくみ、呼吸困難、失神などの症状はご相談ください。
	疾患	狭心症、急性心筋梗塞、大動脈解離、肺塞栓症、心不全、弁膜症、心筋症、不整脈（頻脈性及び徐脈性）の診断と治療に24時間365日対応しています。
	処置	冠動脈インターベンション（ステント、ローターブレーターなど）、デバイス治療（ペースメーカー、ICD、CRTなど）、IABP、PCPS（V-A ECMO）について24時間365日の対応が可能です。
呼吸器内科	疾患	肺感染症（抗酸菌含む）、喘息、COPD、間質性肺炎、肺がん、気胸、急性・慢性呼吸不全、Covid-19など呼吸器疾患全般を診療しています。
	処置	気管支鏡を用いた検査や治療、胸腔ドレナージによる治療を行っています。重症管理も行います。
脳神経内科	疾患	脳神経系にかかわる急性期疾患を対象としています。脳梗塞急性期、ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、髄膜炎などです。
	処置	脳梗塞急性期に対しては、血栓溶解療法・血栓除去術をはじめとした治療を24時間365日対応できるように努めています。
血液内科	疾患	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの造血器腫瘍に対する化学療法を行っています。その他、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血など、良性の血液疾患の診療も行っています。
	処置	外来化学療法室や病院の無菌室を使用して、抗がん剤治療、放射線照射、免疫抑制療法、骨髄検査などを行っています。
膠原病内科	疾患	リウマチ疾患全般を扱いますが、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人スチル病、痛風、偽痛風については最新治療を取りいれ、患者さんのADL向上につなげています。
	処置	患者さんの症状、程度に合わせて、副腎皮質ステロイド大量投与、生物学的製剤、JAK阻害剤、免疫抑制剤投与も含めた治療を行っています。

新任医師の紹介

消化器外科 医師
佐野　淳一

ひとりでも多くの患者さんを幸せにできるよう精進してまいります。

趣味又は座右の銘：自転車

呼吸器外科 医師
村岡　祐二

患者さんに満足してもらえる医療を提供できるように頑張ります。

趣味又は座右の銘：筋トレ・ランニング

歯科口腔外科 医師
礒﨑　祐太

歯科口腔外科の一員として、地域の医療に貢献できるように精一杯頑張ります。

趣味又は座右の銘：不撓不屈

感染症科 医師
小林　竜也

皆様のお役にたてるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

趣味又は座右の銘：一念岩をも通す

新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

以下の症状がある方は、必ず事前に電話連絡をしたうえでご来院いただきますようお願いします。

発熱

強い倦怠感や風邪の症状

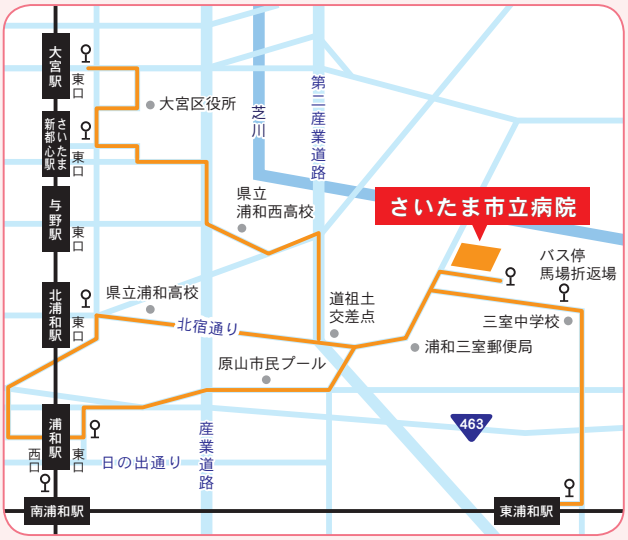
においや味を感じない

ご来院の際はマスクの着用をお願いします。

面会を原則禁止とさせていただいております。

面会は、入退院時、病状説明時、手術当日など、医師または看護師からご連絡させていただいた場合に限らせていただきます。また、洗濯物等の受け渡しでご来院の際は、病棟入口のインターフォン外側で対応いたします。

アクセス



・JR「北浦和駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 15 分)
・JR「浦和駅」から
東口 国際興業バス「南台」行き「市立病院」下車 (約 20 分)
西口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 25 分)
・JR「さいたま新都心駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 30 分)
・JR「東浦和駅」から
国際興業バス「馬場折返場」行き 終点下車 (約 15 分)、下車徒歩 5 分
国際興業バス「市立病院」行き 終点下車 (約 20 分)
・JR「大宮駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 40 分)

さいたま市立病院
住所　　：さいたま市緑区大字三室2460
電話　　：048-873-4111
ホームページ：https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html

令和4年9月発行　発行者：さいたま市立病院　院長　堀之内　宏久

※この印刷物は1,200部制作し、1部あたりの印刷経費は62.7円です。